

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	鹿島市立七浦小学校
-----	-----------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力向上では、5、6年生において算数のTT授業、全校での家庭学習強化週間を行ってきた。また、朝の時間に国語タイムや算数タイム、社会科タイムで基礎基本の定着を図ってきた。さらに、教職員全体で「鹿島の学びスタイル」を共通理解し実践を行ってきた。来年度は、個に応じた学びについて工夫していきたい。</p> <p>・心の教育に関しては、いじめアンケートとその後の指導・支援、CAPの研修、Q-Uアンケート実施と調査分析を行い、いじめの未然防止に努めてきた。縦割り活動の充実や人権週間の取組等を行い、自己理解を進めつつ相手を思いやれるような支援を行ってきた。ほとんどの児童は、楽しく学校生活を送ることができている。不登校傾向にある児童への支援については、担任や養護教諭を中心に行ってきた。今後もSCやSSW、外部の機関との連携を継続していきたい。</p> <p>・今年度も、地域の方にたくさんの学校支援をしていただいた。第2回地区・小学校合同運動会や公民館主催行事(地区との交流ウォーキング、親子郷土料理大会)に参加し、児童には地域の良さを味わわせることができた。これからも地域に興味をもち、参加、貢献するよう促していきたい。</p> <p>・業務改善、教職員の働き方改革の推進については、年休取得の減少が見られたため、来年度は、長期休業を中心に年休取得増を目指す。そのためにも休みが取りやすい雰囲気を作していきたい。時間外勤務時間に個人差が見られる。計画的な業務の推進や行事の精選、週時程の工夫を行い働き方改革をより一層進めていきたい。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	一人ひとりの子どもの個性を磨き、しなやかにたくましく生きる子どもの育成 ～心豊かにたくましく～
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>①主体的・対話的で深い学びを実現させる魅力的な授業づくり【教職員の資質向上・実践授業研究】</p> <p>②児童一人ひとりに響く心の教育の充実【道徳教育、心の海PJ】</p> <p>③自主的な運動力とたくましい心身の育成【学びの里PJ・体の嶺PJ】</p> <p>④地域・家庭との連携を通じた、ふるさと「七浦」を愛する心の育成【体験学習・地域連携】</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践(鹿島の「学びスタイル」)	○目標の時間以上、家庭学習に取り組む児童の割合を80%以上にする。 ○児童アンケートで授業が楽しいと回答する児童の割合を90%以上にする。 ○自分の考えを友だちに伝えることができる児童の割合を90%以上にする。	・年2回、家庭学習強化週間を実施し、保護者と協力し、家庭学習の定着に取り組む。 ・「めあて」「まとめ」「振り返り」の充実を図り、分かる授業に取り組む。 ・授業中に自分の考えをもつ時間を確保し、考えを広げ深める話し合い活動を取り入れる。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●児童アンケートで「相手の気持ちを考えて、発言や行動ができていますか」の項目で、肯定的に答える児童を90%以上にする。 ●いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答する教職員を90%以上にする。	・他者を思いやる心を育てるために、生徒指導や道徳の授業を通して、自己肯定感を育む言葉のつかい方など、相手を思いやる行動に視点を当てた取組を行う。 ・心のとびらアンケートやQ-Uアンケートの分析結果、教育相談等をもとに、担任による個人面談を行い、いじめの早期発見に努める。 ・職員会議等を通して職員間で情報交換を行い、組織的に対応する。							
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童を80%以上にする。 ②「健康のためにバランス良く食事をとるように気をつけている」児童を80%以上にする。	・縦割り活動やスポーツチャレンジに全校児童を取り組ませ、外遊びの習慣をつけさせる。保健指導と連携し、運動する良さを全校に広める。 ・体育的行事をPJメンバーを中心に計画的に取り組み、児童の活躍の場を設定する。 ・学級活動や家庭科の授業で食についての授業を行い、食育の充実を図る。 ・委員会活動を通して子どもたちから食の大切さについて呼びかける機会を設ける。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在在等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在在等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上にする。	・研修・会議等の精選を行い、休暇が取りやすい環境づくりをする。 ・毎週金曜日を定時退勤日として設定するとともに、職員の業務時間の把握を行い、時間外在在時間が長くないようにする。							
●特別支援教育の充実	○教員の専門性、意識の向上と児童一人一人のニーズに応える教育の推進	○定期的に支援を必要とする児童の共通理解を行う。 ○特別支援に関する専門性が向上したと答える教職員を90%以上にする。	・連絡会での情報共有とケース会議の実施 ・特別支援に関する研修会、巡回相談の実施 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の確実な作成・実施と保護者との共有							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○地域と連携した教育活動の推進	○開かれた学校作り ○地域の人材や教育資源を活用した体験活動の充実	○学校運営協議会を年3回開催し、それぞれの意見や評価をもとに、地域やPTA、学校が協働することで双方向の連携を行う。 ○「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者を90%以上にする。	・校長の学校運営方針や教育カリキュラム等を学校運営協議会でお知らせするとともに、学校便りやHP等で学校生活について紹介していく。 ・生活科や総合的な学習、社会科等で地域を生かした学習を進める。また、児童へ地域行事への参加を勧める。			
○児童の主体性や自治意識を高める教育活動の充実	○特別活動を中心とした、子どもたちが主体となる自治的な活動の推進	○授業や行事等で「児童に任せる、委ねることを意識した」教職員を90%以上にする。 ○児童アンケートで「自分たちで考えて行動することができる」の項目で肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	・各教科や総合的な学習、行事等で児童の出番や役割を意識した学習活動を進める。							

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p>
----------------	----------------------------------